

夜叉が池

むかし、むかしある国に正直者の領主と三人の娘がおりました。大金持ちで家の回りに田んぼが沢山ありました。

ある年のことです。数か月、雨がありませんでした。土地は渴いて、米は育ちませんでした。領主は土手に座って途方に暮れていました。その時です。蛇が近づいて来ました。

領主は、蛇に言いました。

「蛇さんよ、天に行って水を貰って田んぼを一杯にしてくれたら、娘の一人をあげるよ。」その晩のことです。一晩中どしゃ降りの雨が突然降り始めました。領主は、田んぼが水で一杯になるのを見て大変喜びました。

数日後、見知らぬ若者が家に訪ねてきました。

「私は湖に住む蛇神で、言われた通りに田んぼを水で一杯にしました。今日は、娘さんを貰いに来ました。約束は約束です。」

「困った。どうしよう。でも約束は約束だ。」

まず領主は、長女に蛇と結婚するよう頼みました。

「何を言うのよ。勿論、お断りです。気が変になったの。」長女は立腹しました。

次に、次女に頼みました。

「何を言うのよ。勿論、お断りです。お父さん、嫌い。」

次女も立腹しました。

最後に三女に頼みました。

「お父さんは、蛇に娘をやると言ってしまった。約束は破ったことはいままでにない。そうしてくれるか。」

「蛇と結婚などしたくないわ。でも約束を破ることはよくないわ。お父さんの望みなら結婚します。」次女は悲しそうに言いました。そしてその日の晩、家を出ました。

数日後、領主は、白無垢の三女が湖に立ち、暗闇の中で来るように頼んでいる、奇妙な夢を見ました。湖を訪れた領主は、二匹の大蛇が湖の上にいるのを見ました。娘の夢を見てからは湖に行くと必ず二匹の蛇を見ました。(kudos)

